現地レポート

長野県川上村

レタスに使い続けて45年
日本一の産地を支える千代田化成

原　哲蔵さんは長年レタスを栽培されており、現在は(有)DIC信濃川上の社長を勤められています。
レタスに千代田化成を使い続けている理由や、使い方を紹介していただきました。

サンアグロ
SUN AGRO CO., LTD

■父親の代から使い続ける千代田化成

「レタスを作り始めて四十五年になります。千代田化成は、物心付く前から父親が使っていました。」

長野県南佐久郡川上村は日本一のレタス産地として知られています。原さんは父親の代からレタスを作り始め、その当初から千代田化成を使っていただいています。

春。川上村の一年が始まる

■効き方がソフトで玉揃いが良い

「一番のこだわりは玉を揃えることです。一〇〇個のレタスをみな同じ大きさ、形に仕上げる。肥料が思うように効いてくれなければこうはいきません。」

川上村のレタス栽培の最盛期は夏。レタスを作るには一番難しい時期です。レタスは暑くても寒くても効きすぎない。これが玉を揃えるのに効いてくれるので、一年中安心して使えます。」

「肥料はソフトで無駄なくすぎず、効かもソフトに効いてくれるので、一年中安心して使えます。」

この四十五年も使い続けている理由は、この辺りにあるようです。

「100個のレタスをみな同じ大きさに。」

■基肥に千代田とツバメコート、追肥も千代田

「川上村では四月から一斉に施肥とマルチ掛けが始まります。

基肥に千代田エースを反当6袋前後入れます。さらにツバメコート（レタス専用銘柄）と有機質肥料を入れます。」

近年、川上村ではレタスの連作障害回避のために、はくさいやキャベツの栽培が増えてきています。

レタスの二期作の場合は、二作目のフィン千代田をマルチの植付前に施肥します。

はくさいの植付前に千代田エースを上から施用します。」

レタス・はくさいの二毛作の場合は、ママルチにはくさいの上から施用します。

マルチの上から水抜き穴が開けられている雨や湿気で溶けた肥料はその穴から地面にしみ込みます。

原さんもレタス以外にはくさい、キャベツ、ダイコンなどを栽培されています。

はくさいの追肥に千代田エース

マルチの上から追肥を施用

夏。高原野菜栽培の最盛期

■なくてはならない肥料

「千代田の効きかたはソフトで無駄がなく入れたかだけしっかり効くのマッチングも最高です。

これからも期待してはならない肥料です。」

川上村の肥料、そして川上村を知り尽くした原さんの笑顔に、控えめながらも満々たる自信と力強さを感じました。

原さん、ご協力ありがとうございました。

■編集後記
川上村は「後継者率100%」と言われている産地で、畑で爺ちゃん、父ちゃん、若い衆が一緒に働いています。
ここで働く人たちからは”力強さ”を感じさせられます。「強い産地には強い人」ということでしょうか。日本中の産地がみなこのようになればと、つくづく感じた取材でした。

高原野菜を作り続けて35年
肌で感じる千代田化成の良さ

現地レポート
長野県川上村

日向敏彦さんは高原野菜を35年間作り続けている生産者で、現在は(有)DIC信濃川上の組合員の一人です。
高原野菜に千代田化成を使う理由や、使い方を紹介していただきました。

サンアグロ
SUN AGRO CO., LTD

■高原の気候に適した野菜を

「父親の後を継いで三十五年になります。主体はレタスですが、はくさいやキャベツなど、高原の気候に合った作物を作っています。」

高原野菜の大産地、長野県南佐久郡川上村。日向さんは川上村の気候や畑の条件に合った栽培を心がけています。

未明の収穫。最盛期には朝3時から

■数字通りに作物が吸ってくれる肥料

「今までにいろんな肥料を試してきました。その中で、良さを肌で感じることが出来たのは千代田でした。以来、二十年以上使い続けています。」

レタスは肥料の効きかたに比較的敏感な作物で、生産者の皆さんは施肥量や施肥のタイミングに気を配られています。

「千代田は無駄がありません。3要素の数字通り、施肥した数字通りに作物が吸ってくれるように思います。」

"肌で感じる良さ"はここにあるようです。

父も、息子も、ただ黙々と

■溶けやすい千代田は追肥に最適

「基本的に追肥で生育を調整しています。特にはくさいはそうです。追肥は畝間に筋状に施用します。千代田は溶けやすいので早魃のときでもスプリンクラーを回せばちゃんと効いてくれます。」

マルチにはは水抜き用の穴が開けられているため、溶けた肥料はその穴から地面にしみ込みます。

夜明け。山の稜線から太陽が顔を出した

収穫は明け方まで続く。すべて手作業。大変な重労働

■肥料の三要素と畑の三要素

「肥料以外にも"土作り・管理・観察"という、良い畑を作るための三要素があります。」

川上村もここ数年異常気象が続いています。

「"肥料の三要素"と"畑の三要素"がちゃんと機能しなければ、この天候に負けずに良い作物を作ることはできません。千代田の三要素はしっかりと機能してくれます。」

これまでの経験やあらゆる知識を体に刻み込んでいるような日向さん。本当に良い話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

■編集後記
川上村は「後継者率100%」と言われている産地で、畑で爺ちゃん、父ちゃん、若い衆が一緒に働いています。
ここで働く人たちからは"力強さ"を感じさせられます。「強い産地には強い人」ということでしょうか。日本中の産地がみなこのようになればと、つくづく感じた取材でした。